第19回公安委員会定例会開催状況

1　開催日時

令和８年７月23日（木）13時30分～16時40分

2　決裁事項

⑴　人事案件

警察本部から、人事案件について報告を受け、決裁した。

⑵　免許の取消し等

警察本部から、免許の取消し等について報告を受け、決裁した。

⑶　審査請求の裁決

警察本部から、審査請求の裁決について報告を受け、決裁した。

⑷　苦情の調査結果

警察本部から、苦情の調査結果について報告を受け、決裁した。

⑸　苦情の調査結果

警察本部から、苦情の調査結果について報告を受け、決裁した。

⑹　警察職員等の援助要求

警察本部から、警察職員等の援助要求について報告を受け、決裁した。

3　報告事項

⑴　令和８年上半期の犯罪抑止総合対策推進状況

警察本部から

○　上半期の刑法犯認知件数は4,795件と、前年同期比139件（－2.8％）減少した。上半期の特徴として、暴行等の粗暴犯、特殊詐欺を含む知能犯が増加し、窃盗犯全体が大きく減少した。主な取組として、刑法犯認知件数の総量抑止を目的とした「重点罪種集中対策」、貴金属店等を対象とした強盗・窃盗被害防止対策を推進した。

○　上半期の特殊詐欺認知件数は257件と、前年同期比46件（21.8%）増加し、被害額は約21億6,180万円と、前年同期比約11億6,870万円（117.7%）増加した。上半期の特徴は、ＳＮＳ型投資詐欺及びニセ警察詐欺が多発しており、これら二つの手口の認知件数は全体の約６割、被害額は約８割に上る。主な取組として、集中ダウンロード推進期間を設定した警察庁推奨特殊詐欺対策アプリの普及促進、防犯情報配信アプリ「ハレノポリス」や公式ＳＮＳを活用したタイムリーかつ訴求力の高い広報を実施した。

旨の報告を受けた。

委員が、

「特殊詐欺の内、特にニセ警察詐欺は分かっていても慌ててしまうため被害に遭うものと考える。疑似体験を行うことで、いざというときにも冷静な対応ができると考えるため、検討いただきたい。」

「学生に対する広報啓発活動を行うことで、闇バイト等への加担を防げると考えられる。学生に影響力のある広報啓発活動を行っていただきたい。」

旨を発言した。

⑵　令和８年上半期のサイバー犯罪対策推進状況（暫定値）

警察本部から

○　暫定値であるが、令和８年上半期のサイバー犯罪相談件数は2,908件と、前年同期比426件増加し、詐欺・悪質商法に関する相談が1,558件で最多となった。

○　サイバー犯罪検挙件数は218件と、前年同期比33件増加し、犯罪収益移転防止法違反や詐欺等のその他サイバー犯罪の検挙が191件で最多となった。

○　主な取組として、岡山県警察におけるサイバー戦略の改定、官民連携によるサイバーセキュリティ意識の向上、サイバー事案対処能力向上に向けた取組を行った。

旨の報告を受けた。

委員が、

「人工知能の発展によりサイバー犯罪は高度化の一途をたどっている。住民への広報啓発活動を徹底し、サイバー犯罪に対する認識を高めていく必要がある。」

「新しい手口の犯罪が次々と出てくるため、先手先手で働き掛けを行う取組が重要である。商工会等を通じて企業に対する講習を行い、サイバー攻撃に対する知識や認識を広報していく必要がある。」

旨を発言した。

⑶　令和８年上半期の刑事事件検挙状況（暫定値）

警察本部から

○　暫定値であるが、令和８年上半期の刑法犯認知件数は4,795件で前年同期比139件減少、検挙件数は2,157件で前年同期比54件増加、検挙率は45.0%で前年同期比2.4ポイント増加した。

○　重要犯罪認知件数は82件で前年同期比19件減少、検挙件数は84件で前年同期比23件減少、検挙率は102.4%で前年同期比3.5ポイント減少した。

○　重要窃盗犯の認知件数は256件で前年同期比48件減少、検挙件数は193件で前年同期比４件減少、検挙率は75.4%で前年同期比10.6ポイント増加した。

旨の報告を受けた。

委員が、

「全国的にも高い検挙率であることは良い傾向である。引き続き、検挙活動を継続していただきたい。」

「高い検挙率は「岡山で犯罪をすると捕まる」という認識を広く周知することに繋がり、犯罪の抑止効果が期待できるものと考える。下半期も継続して高い検挙率を維持していただきたい。」

旨を発言した。

⑷　令和８年上半期の組織犯罪対策推進状況（暫定値）

警察本部から

○　暫定値であるが、令和８年上半期の匿名・流動型犯罪グループ検挙人員は49人であり、その内、ＳＮＳから応募・加担した者は24人であった。主な検挙事件は、匿名・流動型犯罪グループによる侵入窃盗事件である。

○　上半期の特殊詐欺に係る検挙人員は27人で、役割別としてリクルーター２人、回収役１人、受け子21人、出し子１人、その他２人となる。

○　上半期の暴力団の検挙件数・人員は29件24人であり、主な検挙事件は池田組幹部らによる所在国外移送誘拐等事件である。

○　上半期の薬物事犯の検挙人員は93人で、内訳は覚醒剤39人、大麻49人、麻薬・向精神薬５人である。

旨の報告を受けた。

委員が、

「匿名・流動型犯罪グループを壊滅するため、警察庁との連携を取り、分析や突き上げ捜査を徹底していただきたい。」

「匿名・流動型犯罪グループは、未だ組織の実態が不明瞭であるため、解明に向けて取組を進めていただきたい。」

旨を発言した。

⑸　令和８年度監察実施状況（令和８年４月～６月）

警察本部から、令和８年度監察実施状況（令和８年４月～６月）について報告を受けた。

⑹　国家賠償請求事件の応訴方針

警察本部から、国家賠償請求事件の応訴方針について報告を受けた。

⑺　令和８年度県下通信指令・無線通話技能競技大会の開催

警察本部から、令和８年度県下通信指令・無線通話技能競技大会の開催について報告を受けた。

⑻　国際化対策推進広報用ポスター優秀作品表彰式の開催

警察本部から、国際化対策推進広報用ポスター優秀作品表彰式の開催について報告を受けた。

⑼　警察学校初任科卒業式の挙行

警察本部から、警察学校初任科卒業式の挙行について報告を受けた。

４　次回公安委員会

令和８年８月６日（木）13時00分から開催予定